

2025 年 9 月 10 日

報道関係者各位

オリザ油化株式会社

オリザ油化(株)、
「**LycōLift®**(リコリフト®/トマト種子エキス)」の
肌弾力改善作用の特許を取得

オリザ油化株式会社(本社:愛知県一宮市、代表取締役:村井弘道、以下「当社」)は、この度、2018 年に上市し、肌上のコラーゲン・エラスチンのリサイクル作用を有する「**トマト種子エキス(リコリフト®)**」について、**肌弾力改善作用の新たな特許を取得したことをお知らせいたします**(特許 7735025 号: **皮膚の粘弾性向上剤**)。「**トマト種子エキス(リコリフト®)**」の特許取得数は、これで**6つめ**となります。

これまでに肌の状態を正常に保つメカニズムおよび臨床試験結果に関する特許を5つ取得しています(特許第 6799114 号, 7026181 号, 7405543 号, 7624694 号, 7613901 号)。

■ 特許化された肌弾力改善作用について

当社では、「**リコリフト®(トマト種子エキス)**」について外部 CRO による臨床試験を実施し、肌弾力における効果を評価いたしました。

試験の概要および結果は以下に記載の通りです。

【試験プロトコル】

試験デザイン: ランダム化二重盲検プラセボ対照並行群間比較試験

被 験 者: 顔の肌の弾力に悩みを持つ健常な成人女性

試 験 品: リコリフト®(トマト種子エキス)-P 200 mg/日(リコペロサイド H として 1 mg/日)

撮 取 期 間: 8 週間

評 価 項 目: キュートメーター※1 による肌弾力測定、血中の糖化ストレスマーカー定量

【試験結果】

- ✓ **肌弾力パラメーターである総弾性 (R2)※2、正味の弾性 (R5)※3 および回復の弾性 (R7)※4 における有効性の確認**
- ✓ **糖化ストレスマーカーである血中ペントシジン※5 量の有意な減少**

これらの結果より、リコリフト®(トマト種子エキス)の継続摂取は**糖化ストレスを軽減させることによって肌弾力の維持に有効性を示す**ことが明らかとなりました。

当社では、本研究結果について既に論文発表 (*Journal of Cosmetics, Dermatological Sciences and Applications*, 11, 217-236 (2021).) をしており、**機能性表示食品**としても、「**本品にはリコペロサイド H が含まれます。リコペロサイド H は、肌の弾力を維持し、肌の健康に役立つことが報告されています**」というヘルスクレームにて**新様式対応、PRISMA2020 準拠の受理実績**がございます。

今後は、今回取得した特許も含めてこれまでに構築してきたトマト種子エキス(リコリフト®)の豊富なエビデンスを基に国内外への更なる販促展開を強めていきたいと考えております。

【用語解説】

- ※1 キュートメーター: 皮膚の粘弾性(はり・弾力)を科学的に測定する機器。皮膚科学研究において世界中で幅広く使用されている。
弾力パラメーターを R0~R7 の 8 項目で評価でき、R2, R5, R7 は年齢と負の相関を示すことから主要な評価項目として採用される。
- ※2 総弾性(R2): 皮膚の総合的な弾性回復力(引っ張った皮膚が元に戻るまでの力)を示す。
- ※3 正味の弾性(R5): 皮膚の純粋な弾性回復力を示す。
- ※4 回復の男性(R7): 皮膚の瞬間的な弾性回復力を示す。
- ※5 ペントシジン: 糖化最終生成物(AGEs)の一種で、蓄積すると皮膚の柔軟性喪失などを引き起こす。
- ※6 細胞外マトリックス(ECM): 真皮においてコラーゲンやエラスチンによって構成され、皮膚の弾力性を担う重要な役割を果たす。

■ リコリフト®(トマト種子エキス)について

リコリフト®(トマト種子エキス)は、**皮膚の細胞外マトリックス(ECM)^{※6} 生成サイクル促進作用を訴求した素材**として 2018 年に上市しています。

トマト種子のみに含まれる成分についてはほとんど研究されておらず、オリザ油化と京都薬科大学で成分研究を行った結果、主要成分としてサポニン化合物である**リコペロサイド H**を単離・同定し、この成分がトマト種子の主要成分であることを世界で初めて報告しました。



トマト種子エキス

更に、ECM の生産サイクルに関連する遺伝子発現について評価し、トマト種子エキスおよびサポニン(リコペロサイド A,H)がコラーゲンおよびエラスチンの産生にそれぞれ関与する smad および fibulin 遺伝子や、古くなったコラーゲンやエラスチンの分解物の取り込みにそれぞれ関与する endo180 および neuraminidase-1 遺伝子発現を有意に増加させることも、世界で初めて明らかにしています。

これまでトマト種子エキスにはECMのサイクルを高めることにより、肌のコンディションを正常に保つ効果が期待できるとして、メカニズムおよび臨床試験結果に関する特許を5つ取得しています(特許第6799114,7026181号:ECMサイクル正常化剤、特許第7405543号:経口美肌用組成物、特許第7624694号:Th1/Th2サイトカインバランス調整剤及びそれを用いたアトピー皮膚炎改善剤、特許第7613901号:アレルギー性皮膚炎予防・治療剤)。